授 業 要 項（令和８年度分）

１　年　生

理学療法学科

授業科目名	心理学	（フリガナ） 担当教官名	小林亮輔（コバヤシ リョウスケ）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	この授業では、心理を「感情」「思考」「行動」の集合と定義し、この観点から、自己または他者についての理解を深める。また、提出課題となるワークシートや授業内でのグループ活動を通して、学んだ心理学の知識や技術を日常生活において役立てられるようにする。
到達目標	心理学に関する知識を得るとともに、それらを自身の日常生活に活かせるようにすること。

回数	授業内容	担当
1	心理について	小林亮輔
2	感情について	小林亮輔
3	思考・行動について	小林亮輔
4	睡眠について	小林亮輔
5	人付き合いについて	小林亮輔
6	コミュニケーションについて	小林亮輔
7	ストレスマネジメントについて	小林亮輔
8	リラックスについて	小林亮輔

アクティブラーニング	授業の内容、特にコミュニケーションや協力、等を踏まえたグループ活動
評価基準	提出物 40%、試験 60%
教科書	特になし
参考書	特になし
実務経験に関する記述	公立学校や大学、矯正施設等でのカウンセリング経験を持つ教員が、心理教育の視点から、実用的な知識や技術の教授を意図した実践的教育を行う。

授業科目名	倫理学			（フリガナ） 担当教官名	タ ナカ カズ マ 田 中 一 馬		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修･選択 の別	必修
科目概要	倫理に関する基本的な知識を得るとともに、自分の考えを根拠を示しつつ、適切に表明するために必要な技術を身に付けます。						
到達目標	・倫理学上の基本的な立場の特徴について説明できる。 ・倫理的な問題に対する自らの考えを倫理的に明瞭に表明できる。						

回数	授業内容	担当
1	倫理学とは何か：道徳と倫理の違いについて	田中一馬
2	倫理学に考えるために：価値判断とヒュームの法則	田中一馬
3	倫理的な価値判断の根拠づけ：帰結主義と非帰結主義・功利主義について	田中一馬
4	倫理的に考えてみる（その1）：安楽死について	田中一馬
5	倫理的に考えてみる（その2）：人工妊娠中絶について	田中一馬
6	倫理的に考えてみる（その3）：出生前診断について	田中一馬
7	倫理的に考えてみる（その4）：肉食の是非について	田中一馬
8	まとめ	田中一馬

アクティブラーニング	毎回問いを発し、それに答えていただきます。
評価基準	期末試験80%、ワークシート20%の割合です。 理由の立たない欠席は、一回につき5点減点します。
教科書	特に指定しません。
参考書	神崎宣次・佐藤靜・寺本剛　編『倫理学　改訂版』昭和堂、2025年 他、授業時に適宜紹介します。
実務経験に関する記述	

授業科目名	文化人類学	（フリガナ） 担当教官名	岩田淳也（イワタ ジュンヤ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	本科目は、島根県奥出雲町の文化、行政、商業、観光、地域医療など多角的視点から調べ、学び、奥出雲町の地域資源や地域課題の理解を深める。
到達目標	これから4年間学ぶフィールドとなる奥出雲町について、魅力や課題点など地域の理解を深めることができる。また、授業内のグループワークを通じ、新たな仲間と社会人として協働できる。

回数	授業内容	担当
1	本授業の概要と課題①（奥出雲町の概要）についてのオリエンテーション	苅田・岩田
2	課題①のグループワークと発表	苅田・岩田
3	課題②（奥出雲の産業、観光、医療･福祉介護施設等について）のオリエンテーション	苅田・岩田
4	グループワーク	苅田・岩田
5	グループワークと進捗報告	苅田・岩田
6	グループワークと進捗報告	苅田・岩田
7	グループワーク結果の発表	苅田・岩田
8	グループワーク結果の発表	苅田・岩田

アクティブラーニング	授業で取り上げる課題に関して、グループワークを行い発表する機会を設ける。
評価基準	発表（内容・プレゼンテーション・発表資料）60%、授業や課題への取り組み状況40%
教科書	必要に応じて資料を配布します。
参考書	必要に応じて資料を配布します。
実務経験に関する記述	

授業科目名	コミュニケーション論		（フリガナ） 担当教官名	錦織健次（ニシコオリ ケンジ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	理学療法士・作業療法士の実践活動においては他者の考え方の理解や相手に自分の考えを分かりやすく伝えるなど、コミュニケーションは必須の能力となる。本科目では、対人関係構築の基礎となるコミュニケーション技術について、その理論を理解するとともに基本的技法を修得する。						
到達目標	・言語的・非言語的コミュニケーションについて説明し、活用することができる。 ・コミュニケーション技法について、自己・他者理解の重要性について説明することができる。 ・コミュニケーション技法を活用して、他者の考え、思いを引き出すという考えを身につける。 ・コミュニケーション技法を活用して、自己の考えを相手に伝え理解してもらうという考えを身につける。						

回数	授業内容	担当
1	本学科の目的、内容、到達目標についてオリエンテーションする。 理学療法士・作業療法士に必要となるコミュニケーションについて説明する。	錦織健次
2	コミュニケーション技法（言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）についてペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
3	コミュニケーション技法（聴くこと）についてペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
4	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解等）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
5	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解等）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
6	コミュニケーション技法（自己理解、他者理解等）、自己開示について説明し、ペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
7	コミュニケーションの技法について講義をし、ペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次
8	コミュニケーションの技法について講義をし、ペアやグループで体験し、理解する。	錦織健次

アクティブラーニング	理学療法士・作業療法士にとってのコミュニケーションの必要性、コミュニケーション技法について、個人ワーク、学生同士でのコミュニケーションを取りながら学修を行う。
評価基準	授業内での態度（積極性、発言回数、与えられた役割の遂行状況等）及び課題から総合評価　100％
教科書	内山靖ほか（著）『コミュニケーション論・多職種連携論』（医歯薬出版株式会社）
参考書	適宜紹介する。
実務経験に関する記述	主に医療機関、通所リハビリテーション施設にて作業療法士として勤務した教員が、様々な方との体験談を踏まえてコミュニケーションについて教育する。

授業科目名	キャリアマネジメント論Ⅰ	（フリガナ） 担当教官名	スズキ　テツ 鈴　木　　哲
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	キャリア形成に必要な自己分析の方法を､｢どのように生きていきたいか？（ライフキャリアと幸せの構成要因)」と「どのように働きたいか？（ワークキャリアと働く目的・意味)」から学ぶ。また、本学在学中のキャリア形成モデルを学び、学生時代のキャリア形成の基礎知識獲得を目的とする。
到達目標	・本学で主体的なキャリア形成を行っていくことの意義や重要性を理解する。 ・自己分析の基礎を理解する（ライフキャリアから考えたワークキャリア)。 ・４年間のキャリア形成モデルを理解する。

回数	授業内容	担当
1.2	オリエンテーション 授業の目的と内容理解、到達目標の理解 キャリアとは？ ライフキャリアとワークキャリア 幸福の構成要因とライフキャリア	鈴木　哲
3.4	キャリアとは？ 働く意味とワークキャリア PT・OT の仕事 (業務内容・報酬・キャリアラダー) とロールモデル	鈴木　哲
5.6	就職先が求める人材とは？ 本学４年間のキャリア形成モデルについて	鈴木　哲
7～8	PT・OT の多様化	鈴木　哲

アクティブラーニング	自身のライフキャリアを幸せの構成因子から考えるワークを行う。 ワークキャリアを働く意味から考えるワークを行う。 ロールモデルを探すワークを行う。
評価基準	出席日数と授業態度によって評価を行う
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	なし
実務経験に関する記述	

授業科目名	教育学	（フリガナ） 担当教官名	塩津英樹（シオヅヒデキ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	本講義では、教育に関する理論と方法について体系的に学習することを通して、現代の教育について理解を深めることを目的とする。
到達目標	1. 教育の意義、目的、理論、方法等について理解している。 2. 現代社会における様々な課題を教育の視点から理解している。 3.「教育」という事象を手がかりにして、多面的な視野を獲得している。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション － 教育学を学ぶ意味とは －	塩津英樹
2	教育とは　－ 教育の目的を中心に －	塩津英樹
3	教育の意義と本質　－ 人間の成長と発達 －	塩津英樹
4	福祉と人権　－ 子どもの権利を中心に－	塩津英樹
5	子どもの教育を支える基盤　－ 家庭教育と学校教育 －	塩津英樹
6	共生社会の実現に向けて　－ 特別支援教育の理念とは －	塩津英樹
7	グローバル化と異文化理解	塩津英樹
8	教育学のまとめ　－ 若者の社会参画と自己実現 －	塩津英樹

アクティブラーニング	双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。
評価基準	受講態度、期末試験等により総合的に評価する。
教科書	特に指定はしない。講義時に資料を配布する。
参考書	講義の中で、適宜紹介する。
実務経験に関する記述	

授業科目名	情報処理		（フリガナ） 担当教官名	浅野保広（アサノヤスヒロ）			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修･選択 の別	必修
科目概要	各アプリケーションを利用してデータの貼付け、リンクの設定 Excel の関数を用いて、用途別のワークシートを作成する。						
到達目標	ユビキタスネットワーク社会において安全に必要な情報を得、また日常のコミュニケーションにおいての良い面、悪い面を把握し、便利な道具として情報機器を操作する姿勢を持つ。						

回数	授業内容	担当
1	セキュリティの現状と対策方法	浅野保広
2	パソコンシステム環境の保全と修復（トラブルの実際検証）	浅野保広
3	正しく伝わる文書・誤変換・文字入力時の注意点等	浅野保広
4	正しく伝わる文書・文書の体裁を整える	浅野保広
5	レポート・報告書作成・基本と常識・パワーポイント使用	浅野保広
6	Excel を使ってのレポート・文書の作成方法	浅野保広
7	Excel 表計算・関数を使用したデータ管理	浅野保広
8	Excel グラフ表計算を使用したレポート作成	浅野保広

アクティブラーニング	
評価基準	受講姿勢・課題提出（70%）と出席日数（30%）により判断します
教科書	必要に応じて資料を作成配布します
参考書	必要に応じて資料を作成配布します
実務経験に関する記述	

授業科目名	物理学		（フリガナ） 担当教官名	尾崎　徹（オザキ　トオル）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修
科目概要	物理学は，宇宙と物質はどのようにしてできたか，物質はどのような法則に支配されて運動しているか，を明らかにしてきた．最初に力学ができ，それを基礎にした熱力学，光学，電磁気学，と量子力学などの現代物理学が，理工学や医学に広く応用されている．理学療法学と作業療法学の基礎も人体の運動を正確に表す力学であり，現代物理学を応用した最新の医療機器が両分野の発展を支えている．						
到達目標	理学療法学と作業療法学を習得して医療をおこなうために必要な物理学（主に力学）の考え方と使い方を学ぶ．その指針になるのが，運動の3法則，力のつり合い，力のモーメントのつり合い，圧力のつり合いである．それらを身に着けるために，講義を復習して，課題レポートを提出する．それが予習にもなる．						

回数	授業内容	担当
1	理学療法学と作業療法学を習得するための基礎となる物理学は，力学，熱力学，光学，電磁気学，と量子力学などの現代物理学であることを予め知る．また，それらの物理学を表す物理量が，国際単位系（SI）の単位をもち，また有効数字をもつことを学ぶ．	尾崎　徹
2	力学では運動の表し方を学ぶ．そのために必要な物理量は，方向と大きさを表すベクトル量と大きさだけを表すスカラー量である．ベクトル量として位置，速度，加速度と力を，スカラー量として質量，時間とエネルギーを学ぶ．それらを扱うために，ベクトルと三角関数を復習する．	尾崎　徹
3	重力，弾性力，摩擦力 などの力の正体を学ぶ．運動の3法則から出発して，ボールや人体はもちろん，天体の運動も表すことができる．それを，力のつり合いや落下運動，さらに身体測定への応用などの例をとおして学ぶ．	尾崎　徹
4	力が物体に仕事をして力学的エネルギーが生じる．逆に，力学的エネルギーは仕事をする．力学的エネルギーの保存を利用して物体の運動を調べることができる．私たちは力学的エネルギーを変換して利用していることも学ぶ．	尾崎　徹
5	大きさをもつ物体には重心があり，そこに全ての質量が集中して重力が作用すると考える．ここでは物体を質点の集まりとして，てこや人体などの重心の測定法を学ぶ．てこに作用する重力と力のモーメントによるつり合い，滑車に作用する力とトルクによるつり合いも学ぶ．	尾崎　徹
6	熱力学では，圧力とは何か，温度とは何かを学ぶ．まず圧力のつり合いから，気圧と血圧の測定法を学ぶ．また，熱平衡状態を理解して，気温と体温の測定法を学ぶ．さらに，熱を含むエネルギーが保存することを理解する．	尾崎　徹
7	波動の数学的な表現法と物理的な性質を，音波と電磁波を例にして学ぶ．とくに，音波と電磁波の伝わり方が異なることを理解して，それらが超音波やX線を用いた画像診断に活用されることを理解する．	尾崎　徹
8	現代物理学の応用例を学ぶ．電流は電子の流れであり，電圧と電流と抵抗の間にオームの法則が成り立って，電子体温計が働く．光は電磁波であると同時に光子と呼ばれる粒子の流れであり，おかげで非接触温度測定ができる．光子は赤血球中の鉄原子と相互作用をして吸収される．それをパルスオキシメーターによって測定して血中酸素濃度を得る．	尾崎　徹

アクティブラーニング	講義内容や演示した実験について質問を受ける．また，毎回出題される問題を解き，課題レポートとして提出する．
評価基準	期末試験 70%, 課題レポート 30%, 合計 100% のうち 60%以上を合格とする．
教科書	講義と課題レポートの資料を配布する．
参考書	図書室にある教科書2冊の内容を紹介する QRコード ・北野保行: 優しい物理学＜第2版＞，学校法人仁多学園． ・尾崎　徹: 基礎物理 WORKBOOK＜第2版＞，東京教学社．
実務経験に関する記述	

授業科目名	英語 -Reader-			（フリガナ） 担当教官名	White Matthew Bennett（ホワイト マシュー ベネット）		
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.						
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.						

回数	授業内容	担当
1	Meeting people + self-introduction ; addresses and personal info	White Matthew Bennett
2	Explaining the location of objects in a room ; parts of a house	White Matthew Bennett
3	Explaining the location of people and places.	White Matthew Bennett
4	Describing everyday activities ; parts of the face	White Matthew Bennett
5	Describing the location and activities of people.	White Matthew Bennett
6	Talking about everyday activities using possessive adjectives	White Matthew Bennett
7	Reading for content ; practical vocabulary	White Matthew Bennett
8	Describing people and things using possessive nouns	White Matthew Bennett
9	Describing people using adjectives ; parts of the human body	White Matthew Bennett
10	Describing activities and events ; family members	White Matthew Bennett
11	Talking about family members	White Matthew Bennett
12	Locating places in a city ; asking for directions	White Matthew Bennett
13	Describing buildings ; asking about quantities	White Matthew Bennett
14	Naming and describing clothing ; plural nouns	White Matthew Bennett
15	Review of course contents	White Matthew Bennett

アクティブラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1,Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman,publishers.
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)
実務経験に関する記述	

授業科目名	英語 -Speech-			（フリガナ） 担当教官名	White Matthew Bennett（ホワイト マシュー ベネット）		
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業 形態	講義	必修・選択 の別	必修
科目概要	Self-improvement and confidence in reading and speaking English. Using English for health care and social purposes.						
到達目標	Achieving greater competence in English language as a tool for communication.						

回数	授業内容	担当
1	Describing daily activities ; common questions	White Matthew Bennett
2	Countries, languages and nationalities	White Matthew Bennett
3	Talking about occupations; reading about daily activities	White Matthew Bennett
4	Talking about interests and habits ; review of nationalities	White Matthew Bennett
5	Asking questions about interests and habits ; Yes/No questions	White Matthew Bennett
6	Describing the frequency of activities and habits	White Matthew Bennett
7	Asking about the frequency of activities and habits ; describing people	White Matthew Bennett
8	Describing feelings and emotions ; asking "why" questions	White Matthew Bennett
9	Giving reasons for actions ; Organs of the human body	White Matthew Bennett
10	Expressing ability ; asking about ability/obligations	White Matthew Bennett
11	Inviting; accepting and refusing invitations	White Matthew Bennett
12	Describing future plans and intentions	White Matthew Bennett
13	Telling time; describing and asking about "when"	White Matthew Bennett
14	Describing illnesses and causes ; referring to the past	White Matthew Bennett
15	Review of course contents	White Matthew Bennett

アクティブラーニング	Pair and group conversation activities. Problem solving activities in groups.
評価基準	Class participation + Attendance ; Homework Completion ; Regular Quizzes
教科書	Side by Side Level 1 Extra : Student Book + eText 1, Workbook 1 with CD Steven J.Molinsky + Bill Bliss. Pearson/Longman, publishers.
参考書	English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic)
実務経験に関する記述	

授業科目名	保健体育－講義－		（フリガナ） 担当教官名	安部春香（アベハルカ）			
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	身体･心･社会の健康を多面的に理解し、自己の健康管理能力を高めることを目的とし、睡眠・食事・運動・メンタルヘルス・ヘルスリテラシーなどを学び、健康づくりの実践力を養う。 テーマに沿って情報を収集し、資料を読み込み、自分の考えと結び付けて発展させ、発見したことや学んだことをまとめる。						
到達目標	健康を多面的に理解し、生活習慣の自己管理方法を実践すること、調べた内容や学んだ内容を分かりやすくまとめ表現すること。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション	安部春香
2	これからの「健康」とは？　― 身体・心・社会的ウェルビーイング ―、レポート作成	安部春香
3	食と健康　― 危機管理能力を高める ―、レポート作成	安部春香
4	ライフスタイルとセルフマネジメント、マンダラートの作成	安部春香
5	マンダラートを基にグループ活動、レポート作成	安部春香
6	メンタルヘルスとレジリエンス、レポート作成	安部春香
7	配布資料を基にレポート作成	安部春香
8	配布資料を基にレポート作成、レポートの完成	安部春香

アクティブラーニング	事前に配布する資料などで基礎知識を学び、授業ではグループワーク、ディスカッション、ワークショップなどの実践活動を中心に展開する反転授業形式で行う。
評価基準	出席・態度 10%、各回のノート提出 10%、レポート 80%合計 100%とし 60%以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	適宜配布する
実務経験に関する記述	

授業科目名	保健体育－実技－		（フリガナ） 担当教官名	安（ア）部（ベ）春（ハル）香（カ）			
開講学期	前期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	45 1	授業 形態	実技	必修･選択 の別	必修
科目概要	ライフスタイルの変化に応じたスポーツのかかわりを通じて、健康の保持・増進に関する知識を習得し、実践できる能力を高める。						
到達目標	1．自分のライフステージの中で体力に応じた運動を実践することができる。 2．スポーツの実践を通じて人間関係を円滑にする。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション（選択種目の決定、ワークシートの作成、マナー・ルールの確認）	安部春香
2～11	各種、個人・団体種目の実践（選択制）	安部春香
12	オリエンテーション（選択種目の継続または変更、怪我の防止）	安部春香
13～23	各種、個人・団体種目の実践（選択制）	安部春香

アクティブラーニング	
評価基準	選択科目の実践状況（準備、技術練習、試合、片付け、ルール、マナー）70% レポート提出 20%、出席状況 10%、合計 100%とし 60%以上を合格とする。
教科書	なし
参考書	なし
実務経験に関する記述	

授業科目名	解剖学講義Ⅰ（筋骨格系）	（フリガナ） 担当教官名	横田茂文（ヨコタ シゲフミ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	PT・OT にとって重要な骨学とその連結である関節・靭帯および運動に関わる筋について詳細に学び、PT・OT として医療に関わる基礎を習得する。
到達目標	・骨の構造や発生について総論的に理解するとともに個々の骨の名称を正確に知る。 ・骨の連結（広義の関節）の正常な構造と機能を知る。 ・人体の主要な骨格筋について、その構造を知り、作用を理解する。

回数	授業内容	担当
1	解剖学総論	横田茂文
2	頭蓋骨	横田茂文
3	脊柱、胸郭	横田茂文
4	上肢の骨（1）	横田茂文
5	上肢の骨（2）	横田茂文
6	上肢の連結	横田茂文
7	下肢の骨（1）	横田茂文
8	下肢の骨（2）	横田茂文
9	下肢の連結	横田茂文
10	頭頚部の筋	横田茂文
11	体幹の筋	横田茂文
12	上肢の筋（1）	横田茂文
13	上肢の筋（2）	横田茂文
14	下肢の筋（1）	横田茂文
15	下肢の筋（2）	横田茂文

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験（100%）
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第6版）（奈良　勲ら監修、医学書院）
参考書	Q シリーズ　新解剖学（第6版）（加藤　征監修、日本医事新報社）
実務経験に関する記述	

授業科目名	解剖学講義Ⅱ（神経系）	（フリガナ） 担当教官名	ヨコタ シゲフミ 横田茂文
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	神経系の疾患や障害はPT・OTの対象となることが極めて多い。その病態を理解することや治療を施すために必要な脳・脊髄の立体的な構造と各部位の機能を学ぶ。
到達目標	・脳および脊髄の構造を理解し、それらを機能と関連付けて説明できる。 ・脊髄神経、脳神経および自律神経系の基本構成を理解する。 ・感覚器系の構造を理解し、脳神経との関連を説明できる。

回数	授業内容	担当
1	神経学総論、自律神経	横田茂文
2	中枢神経（1）	横田茂文
3	中枢神経（2）	横田茂文
4	中枢神経（3）	横田茂文
5	中枢神経（4）	横田茂文
6	中枢神経（5）	横田茂文
7	中枢神経（6）	横田茂文
8	中枢神経（7）	横田茂文
9	脊髄神経（1）	横田茂文
10	脊髄神経（2）	横田茂文
11	脊髄神経（3）	横田茂文
12	脳神経、感覚器（1）	横田茂文
13	脳神経、感覚器（2）	横田茂文
14	脳神経、感覚器（3）	横田茂文
15	脳神経、感覚器（4）	横田茂文

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験（100%）
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第6版）（奈良　勲ら監修、医学書院）
参考書	Qシリーズ　新解剖学（第6版）（加藤　征監修、日本医事新報社）
実務経験に関する記述	

授業科目名	解剖学講義Ⅲ（内臓系）	（フリガナ） 担当教官名	横田茂文（ヨコタ シゲフミ）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修

科目概要	循環器や消化器といった内臓の機能や機能を司る構造とその位置を学び、PT・OT に必要な知識を習得する。
到達目標	・心臓の構造と全身の血管系の分布および門脈系と胎生期の循環系を理解する。 ・消化、ガス交換および発声に関わる構造を説明できる。 ・性別による生殖器の構造の違いを理解する。

回数	授業内容	担当
1	循環器系（1）	横田茂文
2	循環器系（2）	横田茂文
3	消化器系（1）	横田茂文
4	消化器系（2）	横田茂文
5	呼吸器	横田茂文
6	泌尿器	横田茂文
7	生殖器	横田茂文
8	内分泌器	横田茂文

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験（100％）
教科書	標準理学療法学・作業療法学・解剖学（第６版）（奈良　勲ら監修、医学書院）
参考書	Q シリーズ　新解剖学（第６版）（加藤　征監修、日本医事新報社）
実務経験に関する記述	

授業科目名	生理学講義Ⅰ（動物生理）	（フリガナ） 担当教官名	橋本道男（ハシモトミチオ）・鈴木哲（スズキテツ）
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	人体の運動機能とその調節について学び、解剖学などの知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解することを目的とする。講義は1.組織・細胞の基礎、2.神経系の生理学的機能、3.筋系の生理学的機能、4.神経－筋機能、5.骨系の生理学的機能、6.感覚系の生理学的機能で構成される。
到達目標	・人体の体液組成とホメオスタシスについて説明できる。 ・神経の働きや、反射、自律神経等についてそのメカニズムを説明できる。 ・筋収縮とその神経メカニズムについて説明できる。 ・骨の機能と代謝についてそのメカニズムを説明できる。 ・体性感覚や視覚、聴覚の生理学的メカニズムを説明できる。

回数	授業内容	担当
1	生理学の概要、細胞の構造と機能	橋本道男
2	人体の体液組成とホメオスタシス	橋本道男
3	組織・細胞の基礎	鈴木　哲
4	神経系の役割と生理的機能	鈴木　哲
5	筋収縮機序の生理的メカニズム	鈴木　哲
6	反射のメカニズム	鈴木　哲
7	自律神経の調整メカニズム	鈴木　哲
8	脳神経の働き	鈴木　哲
9	体性感覚その1（触覚、温痛）	鈴木　哲
10	体性感覚その2（関節覚、振動感）	鈴木　哲
11	特殊感覚の生理的メカニズム	鈴木　哲
12	特殊感覚の生理的メカニズム	鈴木　哲
13	骨系の役割と生理学的機能	鈴木　哲
14	骨吸収と骨形成のメカニズム	鈴木　哲
15	授業全体のまとめ	鈴木　哲

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験60%、出席日数・授業態度20%、レポート提出20% ※期末試験は1回行い、60点以上を合格とする。60点未満の場合再試験を受験することができる。 ※期末試験の得点、出席日数･授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点（100点）の60%以上を単位認定とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学　生理学　第6版　医学書院
参考書	標準生理学　第8版　医学書院
実務経験に関する記述	

授業科目名	生理学講義Ⅱ（植物生理）	（フリガナ） 担当教官名	橋本道男（ハシモトミチオ）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	正常な生体機能を維持するための、血液機能、免疫機能、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、腎機能、体温調節・エネルギー代謝機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学習する。それにより生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムかを考える。
到達目標	・血液の成分と機能について説明できる。 ・免疫機能について説明できる。 ・呼吸に関する肺活量、血液ガス、酸素飽和度、酸塩基平衡について説明できる。 ・心臓の収縮メカニズムとそれに伴う血管の変化について説明できる。 ・血圧・脈拍・心拍数が変化するメカニズムを説明できる。 ・心臓における刺激伝導系のメカニズムと心電図を説明できる。 ・消化吸収のメカニズムについて説明できる。 ・筋収縮とエネルギー代謝の関連性について説明ができる。

回数	授業内容	担当
1	血液の成分と機能	橋本道男
2	免疫の仕組み	橋本道男
3	循環の仕組み、心臓収縮における刺激伝導系の役割と心周期について	橋本道男
4	心臓機能調節のメカニズム	橋本道男
5	血管機能評価とその調節系について、特殊循環について	橋本道男
6	呼吸における肺・気管支の生理的メカニズム	橋本道男
7	呼吸調節における生理学的メカニズム	橋本道男
8	呼吸機能と肺機能評価との関連性について	橋本道男
9	消化における物理・化学的機能の種類と役割について	橋本道男
10	消化における各臓器の相互関係とメカニズム	橋本道男
11	排便における各臓器の相互作用と生理的メカニズム	橋本道男
12	尿の生成に関与する腎臓のメカニズム	橋本道男
13	排尿調節・酸塩基平衡について、排尿反射のメカニズム	橋本道男
14	体温調節について	橋本道男
15	筋収縮とエネルギー代謝、授業全体のまとめ	橋本道男

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験60%、出席日数・授業態度20%、レポート提出20% ※期末試験は2回行い、得点の平均を期末試験の得点とする。それぞれ試験において60点以上を合格とし、60点未満の場合再試験を受験することができる。 ※期末試験の得点、出席日数･授業態度の得点、レポート提出得点の合計が総得点（100点）の60%以上を単位認定とする。
教科書	標準理学療法学・作業療法学　生理学　第6版　医学書院
参考書	標準生理学　第8版　医学書院
実務経験に関する記述	

授業科目名	運動学－講義－	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ サキ ケン ジ 山 﨑 健 治
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要である。本科目は、人間の身体運動に関する基本的な知識を習得することを目的とする。講義は主に、運動学に必要な力学、運動器の構造と機能一般、上肢帯と上肢の運動、下肢帯と下肢の運動、脊柱・体幹の運動、姿勢、歩行に関して学習する。
到達目標	・運動力学の基礎的事項（力、モーメント、身体のてこ等）について理解し、説明することができる。 ・運動に関わる専門用語（運動面、運動方向、運動軸、肢位、姿勢）を理解し、説明することができる。 ・上肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。 ・下肢の構造と運動機能について理解し、説明することができる。 ・体幹の構造と運動機能について理解し、説明することができる。 ・ヒトのアライメントと重心位置について理解し、説明することができる。 ・姿勢保持、歩行の運動学を理解し、適切に説明することができる。

回数	授業内容	担当
1	運動学の基礎（力、モーメント、身体のてこ等）	山﨑健治
2	運動学の基礎（運動面、関節運動と面・軸、肢位・姿勢、収縮様式）	山﨑健治
3	上肢の構造と運動機能（上肢帯、肩関節）	山﨑健治
4	上肢の構造と運動機能（肘関節、手関節、前腕）	山﨑健治
5	下肢の構造と運動機能（骨盤帯、股関節）	山﨑健治
6	下肢の構造と運動機能（膝関節、足関節）	山﨑健治
7	体幹の機能と構造	山﨑健治
8	脊柱の構造と運動機能（頚椎、胸椎）	山﨑健治
9	脊柱の構造と運動機能（腰椎、仙椎）	山﨑健治
10	バランスの戦略	山﨑健治
11	姿勢アライメントと重心	山﨑健治
12	歩行の基礎（歩行周期、歩行時の重心移動と角度変化）	山﨑健治
13	歩行の基礎（床反力、筋のモーメント）	山﨑健治
14	小児と老人の歩行の特徴	山﨑健治
15	授業の振り返り	山﨑健治

アクティブラーニング	特記事項なし。
評価基準	期末試験80%、出席日数・授業態度20%
教科書	運動学（15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト）第2版　中山書店 筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版　医歯薬出版
参考書	「基礎運動学　第6版補訂」（医歯薬出版）
実務経験に関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、運動学の基礎を教授する。

授業科目名	運動学－実習－	（フリガナ） 担当教官名	ヤマ サキ ケン ジ コ バヤシ サキ ノ 山 﨑 健 治・小 林 咲 乃
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	45 1	授業形態	実習	必修･選択の別	必修

科目概要	運動学講義で習得した知識を基盤に、体表からの視診・触診、姿勢保持、基本的動作の観察と分析を行い、基本的動作の特徴や仕組みについて学ぶ。さらに、この実習を通して、運動学的計測手法（筋電図、三次元動作解析装置）について理解を深める。
到達目標	・頸部、体幹、上肢、下肢を構成する骨、筋を体表から視診・触診することができる。 ・基本的動作を観察し、相、筋活動、重心移動、外的モーメント、内的モーメントを分析し、説明することができる。 ・基本的な筋電図の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。 ・基本的な三次元動作解析装置の計測方法を理解し、得られたデータを動作の分析に活用できる。

回数	授業内容	担当
1 2 3	骨の解剖的位置の理解と視診・触診実技	山﨑健治 小林咲乃
4 5 6	筋の解剖的位置の理解と視診・触診実技	山﨑健治 小林咲乃
7 8	上肢、下肢、頸部、体幹の関節運動と筋作用　三次元動作解析装置の演習	山﨑健治
9 10	姿勢保持のバイオメカニクス　姿勢の観察と運動学的要素の分析	山﨑健治
11 12	寝返り動作のバイオメカニクス　寝返り動作の観察と運動学的要素の分析	山﨑健治
13 14	起き上がり動作のバイオメカニクス　起き上がり動作の観察と運動学的要素の分析	山﨑健治
15 16 17	立ち上がり動作のバイオメカニクス　立ち上がり動作の観察と運動学的要素の分析	山﨑健治
18 19 20	正常歩行動作のバイオメカニクス　歩行動作の観察と運動学的要素の分析 小児、成人、老人における各要素の変化	山﨑健治
21 22	観察・分析を行った姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・立ち上がり動作・歩行をグループでまとめる。発表準備	山﨑健治
23	各動作の観察・分析結果をグループで発表する。	山﨑健治

アクティブラーニング	1組3人～4人のグループを形成し、グループで課題を進める。 最終授業では、反転授業を用い、準備と反転授業の実践を通して内容の理解を深める。
評価基準	発表：30%　成果物：30%　取り組み：30%　出席日数・授業態度：10% ※成果物はポートフォリオ形式を取り、科目を通して習熟度を評価する。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢　改訂第2版　メジカルビュー 運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹　改訂第2版　メジカルビュー 運動学（15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト）第2版　中山書店 動作分析　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践　第1版　メジカルビュー
参考書	筋骨格系のキネシオロジー　第3版　医歯薬出版
実務経験に関する記述	急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハビリテーションを提供する総合病院に4年間、外来クリニックに2年間、理学療法士として従事し、多様な疾患に個別理学療法を実践した教員が、演習を通じて人体の構造と身体運動（基本的動作）の関係を教授する。

授業科目名	人間発達学		（フリガナ） 担当教官名	伊藤晃崇（イトウ テルタカ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	生涯にわたる心身の『典型的な発達』を幅広い観点から学びます。そうすることで『発達』が、さまざまな基盤が整うことで初めて発揮される現象であることがわかるようになり、『発達の障害』の構造を理解することに役立ちます。 前半では、発達に関する基本的な理論を学習し、各発達段階の特徴を見ていきます。 後半では、運動、認知、コミュニケーション・社会性、ADL（食事、排せつなど）の領域ごとの発達を整理します。						
到達目標	・発達の原則を理解する。 ・各発達段階と各発達領域の特徴を理解し、相互の関連と順序を述べることができる。 ・『発達の障害』を、発達段階、発達領域、生活構造、および社会構造と関連させながら理解する。						

回数	授業内容	担当
1	発達学総論、胎生期の特徴	伊藤晃崇
2	新生児・乳児期・幼児期の特徴	伊藤晃崇
3	児童期・青年期の特徴	伊藤晃崇
4	成人期・老年期の特徴	伊藤晃崇
5	発達検査	伊藤晃崇
6	姿勢・運動の発達、原始反射、微細運動・目と手の協調運動の発達	伊藤晃崇
7	認知の発達、社会性・コミュニケーションの発達	伊藤晃崇
8	ADL の発達、遊び・仕事の発達	伊藤晃崇

アクティブラーニング	
評価基準	受講態度、期末試験などにより総合的に評価します。
教科書	笹田哲（編）「発達段階×領域別で理解度Ｕｐ！イラストと動画で学ぼう！人間発達学」診断と治療社
参考書	奈良勲・鎌倉矩子（シリーズ監修）「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野人間発達学　第２版」 医学書院
実務経験に関する記述	

授業科目名	病理学概論	（フリガナ） 担当教官名	並河　徹（ナビカ　トオル）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	病気の成り立ちを、正常な組織の形、機能を踏まえて理解する。
到達目標	主要な病態とその成り立ちについて説明できる。

回数	授業内容	担当
1	人体の構造（復習）、細胞障害１	並河　徹
2	細胞傷害２，創傷治癒	並河　徹
3	循環障害と循環器疾患１　梗塞、うっ血、出血	並河　徹
4	循環障害と循環器疾患２　浮腫、ショック	並河　徹
5	炎症	並河　徹
6	免疫	並河　徹
7	腫瘍	並河　徹
8	病態各論　呼吸器、神経、遺伝性疾患	並河　徹

アクティブラーニング	毎時間　小テスト施行
評価基準	筆記試験の成績での評価
教科書	「病理学」疾病の成り立ちと回復の促進、医学書院出版、第６版
参考書	担当教員が作成した資料を配布する。
実務経験に関する記述	大学医学部で病理学の講義を担当。病理診療等担当。

授業科目名	リハビリテーション概論	（フリガナ）担当教官名	岩田淳也・青木竜太朗 神田一路
開講学期	前期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	30 2	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	リハビリテーションは、保険医療福祉分野に求められ、活動範囲は医療提供施設や福祉施設に限らず、地域まで多岐にわたる。この科目では、リハビリテーションの理念や歴史、様々な現場での理学・作業療法士の役割や業務内容について学ぶ。さらに関連職種の役割も理解し多職種連携についても学ぶ。加えて、これらの学びを通じ理学・作業療法士としての専門職意識を高めることも重要な目的とする。
到達目標	･医療人、リハ専門職としてふさわしい倫理観、思考、態度を身に着けることができる。 ・将来関わる対象者を敬う心を身に着けることができる。 ・ノーマライゼーション、リハビリテーションの概念を説明できる。 ・関連諸制度について理解し、説明できる。 ・PT・OT の業務について、対象、職域、内容の概要を説明できる。 ・PT・OT 関連職種の業務役割や内容を説明でき、チーム連携の概念を説明できる。

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション リハビリテーションの概念理解 ・リハビリテーションの歴史と概念 ・ノーマライゼーション、IL 運動 リハ専門職の思考と態度 ・障がいを持つ者の理解 ・医の倫理	岩田淳也
2～3	PT・OT の仕事の実際 実際現場で活躍する PT・OT の方の講話	岩田淳也 青木竜太朗 神田一路
4～5	PT、OT の対象と職域 ・病期に応じた対象と職域 ・保険制度に応じた対象と職域 リハビリテーションの種類に応じた対象と職域（医学的、職業的、教育的、社会的）	岩田淳也
6	リハビリテーションに関わる関連職種の理解 ・リハ専門職：PT、OT、ST ・関連職種：医師、看護師、介護支援専門員等	岩田淳也
7～8	医療従事者に必要な社会スキルについて（姿勢態度・記載）	岩田淳也
9~12	施設見学 施設に赴き、実際に PT・OT の業務を見学する	岩田淳也 青木竜太朗 神田一路
13	施設見学の共有ワーク	青木竜太朗
14~15	関連法規 ・理学療法士及び作業療法士違法の理解 ・個人情報保護法 ・独占資格 ・国家試験の理解	岩田淳也

アクティブラーニング	事例検討などのグループディスカッションを通じて知識を深める
評価基準	出席状況、授業態度 10%、ポートフォリオ 60%、確認テスト 30%で判定し 60%以上を単位認定する 全体評価が 60%の者あるいは期末試験において 60 点未満の者はレポート課題を行う。
教科書	はじめての講義　リハビリテーション概論のいろは（川手信行、南江堂）
参考書	適宜配布
実務経験に関する記述	発達・身体障害分野の病院にて 8 年間勤務した作業療法士が行う。また、実務家教員による実践を伝えてもらう。

授業科目名	社会福祉論	（フリガナ） 担当教官名	ハマ ムラ　オサム 浜　村　　修
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修

科目概要	①社会福祉の概念を理解し、人がより良い生活を実現するために社会福祉が果たす役割について学ぶ ②社会保障制度が人々の生活にどのように関係しているのかについて学ぶ。
到達目標	社会福祉が人々の生活にどのような役割を果たしているのかについて理解できる。

回数	授業内容	担当
1	社会福祉の概要	浜村　修
2	医療と福祉	浜村　修
3	社会資源としての年金	浜村　修
4	介護保険の実践	浜村　修
5	労働者の福祉施策	浜村　修
6	生活保護の実践	浜村　修
7	障がい者福祉	浜村　修
8	社会福祉と個人情報・まとめ	浜村　修

アクティブラーニング	
評価基準	期末試験結果及び出席状況を勘案し、評価を行う。
教科書	「最新・社会福祉士養成講座　7　社会保障　第２版」中央法規出版、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集
参考書	必要に応じてパンフレットや資料配布
実務経験に関する記述	地方自治体職員として 25 年間、社会保障や税制度に携わってきた講師が、福祉における社会保障制度の実際の運用や課題などを例示し実践的な教育を行う。

授業科目名	公衆衛生学		（フリガナ） 担当教官名	タニ　グチ　カオリ 谷　口　かおり			
開講学期	後期						
対象学科 及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業 形態	講義	必修･選択 の別	必修
科目概要	人々の健康を支える医療、介護政策をはじめとする公衆衛生学の基礎知識を身につける。さらに授業での学習内容を踏まえ、地域住民のニーズやコミュニティの医療・介護資源を調査し、地域の健康課題を明らかにする。						
到達目標	1. 公衆衛生学の基本的な知識を習得している 2. 地域に参入し、人々と円滑なコミュニケーションがとれる 3. 公衆衛生学の知識を踏まえ、地域が抱える健康問題について議論できる						

回数	授業内容	担当
1	公衆衛生学概論、保健統計	谷口かおり
2	疫学	谷口かおり
3	疾病予防と健康増進	谷口かおり
4	感染症	谷口かおり
5	医療と福祉制度	谷口かおり
6	高齢者保健	谷口かおり
7	事例演習	谷口かおり
8		谷口かおり

アクティブラーニング	地域に暮らす人々の健康を守るために、事例を通して、医療・介護・福祉のあらゆる側面から住民のニーズと地域の資源を調査、診断する。地域全体が抱える住民の健康課題についてグループワークを実施する。
評価基準	授業への積極的な参加や態度:20%, 定期試験:60％ , 実習報告書:10％ , 報告会での発表･ワークシート：10％
教科書	シンプル公衆衛生学［2026］　南江堂
参考書	国民衛生の動向［2025/2026］厚生労働統計協会
実務経験に関する記述	大学病院で急性期医療に 16 年、診療所での在宅医療・慢性期医療に 3 年の臨床経験を持つ教員が、地域に暮らす住民の健康問題の抽出や、行政との関わりなど実践的な教育を行う。

授業科目名	理学療法概論Ⅰ			（フリガナ） 担当教官名	スズキ　テツ 鈴　木　　哲		
開講学期	前期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修
科目概要	各領域の理学療法の業務内容ややりがい等、加えて4年間の学習モデルを理学療法学科全教員から学ぶ。						
到達目標	・理学療法士を目指す学生として4年間の学習モデルを理解する。 ・理学療法士の業務内容ややりがいを理解する。						

回数	授業内容	担当
1	オリエンテーション 理学療法の歴史と概念、対象と方法、理学療法士の職域	鈴木　哲
2	スポーツ理学療法の概要と学習モデル	堀江貴文
3	整形外科疾患に対する理学療法の概要と学習モデル	山﨑健治
4	物理療法の概要と学習モデル	神田一路
5	在宅医療現場における理学療法の概要と学習モデル	鈴木　哲
6	神経内科疾患に対する理学療法の概要と学習モデル	苅田哲也
7.8	在学生からの学習に対するアドバイス	鈴木　哲

アクティブラーニング	
評価基準	出席状況50%、授業態度50%で評価し、60%以上で単位を認める。
教科書	特になし
参考書	特になし
実務経験に関する記述	

授業科目名	研究方法論Ⅰ（総論：統計）	（フリガナ） 担当教官名	カリ タ テツ ヤ 苅 田 哲 也
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	研究は、理学療法士の社会貢献の一端として重要な活動である。本科目では、研究の意義を理解するとともに、さらに研究に必要な基本的統計学的手法について学ぶ。加えて、実際に論文を読んでみることで文章の読解力を高める。
到達目標	①研究の意義を述べることができる。 ②各変数の特性に応じ、尺度の分類を答えることができる。 ③二群間比較、相関分析を理解し、統計ソフトを用いてモデル実験を実践できる。 ④論文を読み、要約できる。

回数	授業内容	担当
1	研究の目的と意義、CQ と PICO	苅田哲也
2		
3	研究論文の種類と読み方	苅田哲也
4	基礎統計（尺度分類・代表値と散らばり・2 群の差と 2 変数の関係）	苅田哲也
5	基礎統計（尺度分類・代表値と散らばり・2 群の差と 2 変数の関係）	苅田哲也
6	基礎統計（尺度分類・代表値と散らばり・2 群の差と 2 変数の関係）	苅田哲也
7	データ収集から検定の実践	苅田哲也
8	データ収集から検定の実践	苅田哲也

アクティブラーニング	AL のうちグループワークを用いて、CQ と PICO を作成する課題に取り組み、発表を行う。
評価基準	定期試験 80%、出席と授業態度 20%で評価し、100% 中 60%以上を単位認定する。 全体評価が 60%未満または定期試験で 60 点未満の者は 1 回に限り再試験を行う。
教科書	適宜資料を配布する
参考書	特になし
実務経験に関する記述	

授業科目名	理学療法検査測定法Ⅰ	（フリガナ） 担当教官名	ホリ エ タカ フミ・カン ダ イチ ロ 堀 江 貴 文・神 田 一 路
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	理学療法評価の意義と目的を理解し、評価測定技術を習得することを目的とする。具体的にはバイタルサイン測定、形態測定、関節可動域測定の技術・技能を獲得させる。授業形態は、実技・演習を中心に実施する。
到達目標	・理学療法評価の目的、意義、機能について説明できる。 ・理学療法の場面で、対象者に対して、面接、問診、情報収集、インフォームドコンセントを適切に実践することができる。 ・理学療法の場面で、対象者に対し、バイタルサイン測定、形態測定、関節可動域測定をリスク管理に配慮しながら円滑に実施することができる。

回数	授業内容	担当
1～2	オリエンテーション（本科目の到達目標、内容、日程、等） バイタルサイン測定（概論　バイタルサイン測定の意義、目的、方法）	堀江貴文 神田一路
3～4	形態測定（概論、肢長測定、周径測定）	堀江貴文 神田一路
5～8	関節可動域測定（概論、上肢帯、上肢）	堀江貴文 神田一路
9～12	関節可動域測定（下肢、頸部・体幹、その他の検査法）	堀江貴文 神田一路
13～15	アクティブラーニング（バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定の臨床応用）	堀江貴文 神田一路

アクティブラーニング	能動的な学習を促すために、事前学習や反転授業、実際の症例を用いたアクティブラーニングを取り入れる。
評価基準	実技試験（100%）にて評価する。 実技試験：模擬患者に対し、授業内で学んだ技術の定着を評価する。 ※総授業回数の4分の1以上の欠席を未修とする。
教科書	松澤　正・江口勝彦（著）『理学療法評価学　改訂第6版補訂版』（金原出版）
参考書	内山 靖（編集）『標準理学療法学　専門分野　理学療法評価学　第2版』（医学書院）
実務経験に関する記述	総合病院において、専任理学療法士として従事し、急性期病棟、回復期病棟における身体障害および老年期障害に対する個別理学療法を実践した教員が中心となり、理学療法検査法の基礎から、障害や症状に応じた応用・代償方法についても具体的な事例を提示し、実務教育を行う。

授業科目名	運動療法基礎論		（フリガナ） 担当教官名	ホリ エ タカ フミ・カン ダ イチ ロ 堀 江 貴 文・神 田 一 路			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修・選択の別	必修
科目概要	理学療法の技術体系の基礎を構成する運動療法について学習する。運動療法の歴史的変遷と理論的枠組を紹介し、様々な障害に対して共通して適用される基本的運動療法を理解し、その理論と技術（関節可動域運動、筋力増強運動、持久性運動、協調性運動、神経筋再教育、バランス運動、運動学習）の習得を図る。授業構成は講義を中心とするが、適宜実技を含め技術の習得を図る。						
到達目標	・運動療法の概要と関連する用語を理解し説明できる。 ・運動療法の歴史の概要と基礎的理論を理解し説明ができる。 ・関節可動域運動、筋力増強運動、持久性運動、協調性運動、神経筋再教育における基本的理論、対象、目的、実施方法、禁忌事項を説明することができる。 ・各症状に適した関節可動域運動、筋力増強運動、持久性運動、協調性運動、神経筋再教育、バランス運動、運動学習を選択･処方し、学生同士で実施することができる。						

回数	授業内容	担当
1	運動療法における基本的概念と関連用語	堀江貴文
2～4	持久性運動の基本的理論	堀江貴文
5～6	持久性運動（筋持久力、全身持久力）の実際	堀江貴文
7～8	バランス運動の基本的理論	堀江貴文
9～10	バランス運動の実際	堀江貴文
11～13	関節可動域運動（関節可動域運動、ストレッチ、関節モビライゼーション）の基本的理論	堀江貴文
14～16	関節可動域運動（関節可動域運動、ストレッチ、関節モビライゼーション）の実際	堀江貴文
17～18	筋力増強の基本的理論	神田一路
19～20	筋力増強（等尺性運動、等張性運動、等速性運動）の実際	神田一路
21～22	運動学習の基本的理論	神田一路
23～24	運動学習の実際	神田一路
25	協調性運動の基本的理論	神田一路
26～27	協調性運動（フレンケル体操、リズミックスタビリゼーション）の実際	神田一路
28～29	神経筋再教育の基本的理論	神田一路
30	神経筋再教育 (PNF・Bornnstrom 法・Bobath 法) の実際	神田一路

アクティブラーニング	学修した内容をグループでさらに深め、得られた知識と技術の発表を行う。
評価基準	期末試験 90%、実技試験 10%にて評価する。 試験においては 100 点満点中 60 点以上を合格とし、60 点未満は再試験を受験することが出来る。 総合計の 60%以上を単位認定とする。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	運動療法学 －疾患別アプローチと理論と実際－ 第 2 版　文光堂
参考書	適宜配布する。
実務経験に関する記述	総合病院において、急性期リハ、回復期リハ、外来リハ、訪問リハ等多分野において理学療法士として実務を経験した教員が、理学療法における基礎手技から、障害や症状に応じた具体的な事例を提示し、実技や演習を行う。

授業科目名	日常生活活動Ⅰ		（フリガナ） 担当教官名	苅田哲也・大塚彰（カリタ テツヤ・オオツカ アキラ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	30 1	授業形態	演習	必修･選択の別	必修
科目概要	日常生活活動（ADL）と手段的日常生活活動（IADL）の概念を理解し、理学療法評価･介入の基盤として「生活」を捉える視点を養うことを目的とする。代表的な ADL 評価尺度である Barthel Index および Functional Independence Measure（FIM）を中心に、評価項目の意味、採点方法、結果の解釈と活用を学ぶ。さらに、補助具や車いすなどの福祉用具の構造理解と適合、安全な操作・介助方法を実技を通して修得する。起立・着座・移乗といった基本動作については、動作の理解と介助の原則を学び、対象者の障がい特性を踏まえた支援の考え方を身につける。						
到達目標	ADL および IADL の概念と違い、臨床・地域における意義を説明できる。 Barthel Index の各項目の内容を理解し、採点の考え方と結果の解釈を説明できる。 FIM の構成、介助量の段階、採点の基本と結果の読み取りを説明できる。 IADL の代表的項目と評価の観点を説明できる。 杖・松葉杖の種類と構造を説明し、適切な長さ調整の方法を実施できる。 杖・松葉杖歩行の基本的な指導ポイントを説明し、実演できる。 車いすの基本構造を説明し、基本操作および安全確認を実施できる。 車いす介助を安全に実施でき、注意点を説明できる。 起立・着座・移乗動作の要点を説明できる。 起立・着座・移乗の介助方法を、安全配慮を踏まえて実施できる。 動作観察から ADL 上の問題点を推定し、必要な福祉用具・自助具の例を挙げることができる。						

回数	授業内容	担当
1 2	日常生活活動総論	苅田哲也
3	日常生活動作評価（Barthel Index）	苅田哲也
4	日常生活動作評価（Functional independence measure）	苅田哲也
5 6	日常生活動作評価の口頭試問	苅田哲也
7	IADL の概念とその評価	苅田哲也
8	補助具（杖の種類と構造）、杖・松葉杖の長さ調節、歩行指導（実技）	
9 10	車いすの構造と操作・介助方法（実技）	苅田哲也
11	起立・着座動作、移乗動作の理解	苅田哲也
12	起立・着座動作、移乗動作の介助方法（実技）	
13 14 15	ヒトの動作から日常生活活動を考察する。 日常生活活動を支援する器具・福祉用具（自助具を含む）の障がいを考慮した使用実際の紹介	大塚　彰

アクティブラーニング	授業は講義に加えて、基本動作や車いす操作等の実技を実施する。
評価基準	出席点 40%、授業態度 40%、授業間の小テスト (ADL 評価の口頭試問)20%とする。 ※ ADL 評価の口頭試問を合格しなければその後の授業を受ける資格がないこととする。 ※総授業回数の 3 分の 1 以上の欠席を未修とする。
教科書	日常生活活動学テキスト　改訂第 3 版　細田多穂　南江堂 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM［基礎編］　千野直一　金原出版
参考書	適宜資料配布
実務経験に関する記述	総合病院、訪問リハビリ、通所サービスにて 10 年間の臨床経験を持つ教員が、理学療法の治療介入過程に必要な、ADL 評価や福祉用具の使用選定および指導方法について具体的な事例を提示し、実践的教育を行う。

授業科目名	地域理学療法論	（フリガナ）担当教官名	苅田（カリタ） 哲也（テツヤ）・鈴木（スズキ） 哲（テツ）・加藤（カトウ） 忠相（タダスケ） 佐々木（ササキ） 淳（ジュン）・山岸（ヤマギシ） 暁美（アケミ）・山下（ヤマシタ） 勝巳（カツミ） 春日（カスガ） 郁人（イクト）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	30 1	授業形態	講義	必修･選択の別	必修

科目概要	本授業は、地域で暮らす人々を支える理学療法の全体像（地域理学療法論）を学ぶ総論科目である。対象者の「疾患」だけでなく生活機能を捉え、ICF および倫理的葛藤場面の整理枠組み（Jonsen モデル）を用いて課題と目標を整理する視点を身につける。あわせて、対象者との信頼関係づくり、意思決定支援の基本、地域資源の把握と地域資源につなぐ考え方を理解する。さらに、認知症ケアや NBM の視点を通じて、本人の価値観・語り・生活史を尊重した支援の重要性を学び、地域で理学療法士に求められる役割と多職種連携の基礎を説明できることを目指す。
到達目標	地域理学療法の目的、対象、提供場面（在宅・通所・介護予防・地域活動等）を概説できる。 ICFの構成要素を説明し、地域での対象者理解に必要な理由を述べられる。 対象者との信頼関係構築に必要な基本スキルを列挙し、重要性を説明できる。 意思決定支援の基本概念（本人の意思・価値観の尊重、共同意思決定、情報提供のあり方）を説明できる。 価値観の対立が生じる場面で、Jonsenモデルの枠組みを用いて論点を整理できる。 地域資源（制度・サービス・人・場）の種類を例示し、「リソースにつなぐ」ことの意味と注意点を説明できる。 認知症のある人への支援において、本人中心・強み・尊厳を重視する考え方を概説できる。 NBMの考え方を説明し、ICFによる整理との関係を述べられる。 地域での多職種連携における理学療法士の役割と、求められる姿勢を説明できる。

回数	授業内容	担当
1	地域理学療法の概要	鈴木　哲
2	対象者との信頼関係の構築に必要なスキル①	苅田哲也
3.4	対象者との信頼関係の構築に必要なスキル②	春日郁人
5.6	ゴール設定：ICF と Jonsen モデル	苅田哲也
7-10	意思決定支援について	山岸暁美
11.12	対象者を通じたリソースの把握と「リソースにつなぐ」	苅田哲也
13	対象者との関りと認知症ケア：「山勝ライブラリ」を通じて	山下勝巳
14	対象者との関りと認知症ケア：「あおいけあ」を通じて	加藤忠相
15	対象者との関りと NBM：総合診療医の立場から	佐々木淳

アクティブラーニング	・ペーパーペイシェントで示した対象者の情報を ICF モデル・Jonsen モデルにまとめるワークを行う。 ・奥出雲町やその他の地域資源をインターネット等で収集し、模造紙にまとめていくワークを行う。 ・対象者との信頼関係構築に必要な基本スキルを実施するワークを行う。
評価基準	ICF・Jonsen ワークの課題 45%、地域資源の把握課題 45%、出席点 10%とする。
教科書	教材を適宜配布する
参考書	特になし
実務経験に関する記述	

授業科目名	国際リハビリテーション論	（フリガナ） 担当教官名	カメ ダ ヨシ カズ 亀 田 佳 一
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	講義	必修・選択の別	必修

科目概要	学生自身が「国際リハビリテーションとは何か」を言語化することから始め、国や地域によってリハが届き方を変える要因（公的保険制度、財源、人材、退院後の継続支援、家族・文化、アクセス）をとおして、世界と日本の医療・リハビリテーションの違い、北原グループのさまざまな取り組みを学び、「本当に必要な医療・リハ」を考えます。
到達目標	・自分なりの言葉で「国際リハビリテーション」を言語化できるようになる。 ・世界の医療状況を学び、日本の医療状況が特殊であることを学ぶ。 ・リハビリテーションについて自分で考えるきっかけとなる。

回数	授業内容	担当
1	国際リハビリテーションについて考え、なぜ必要なのかを学ぶ	亀田佳一
2	日本を中心に、東南アジア、中央アジアなど国による医療制度の違いを学ぶ	亀田佳一
3	東南アジア、中央アジアなど国ごとのリハビリテーション提供状況を学ぶ	亀田佳一
4	医療途上国にリハビリテーションを拡げる方法を事例をとおして学ぶ	亀田佳一
5	海外事業につながる北原グループの取り組み①　北原トータルライフサポート倶楽部	奥田　明
6	海外事業につながる北原グループの取り組み②　いろどりの丘	伊東秀晃
7	海外事業につながる北原グループの取り組み③　デジタルホスピタル事業	伊東秀晃
8	まとめ	鈴木　哲

アクティブラーニング	一般的に行われている国際リハビリテーションについて調べ、「国際リハビリテーション」とは何かを自分なりの言葉で説明できるように準備してください。
評価基準	レポートで評価します。
教科書	特に指定しません。
参考書	特に指定しません。
実務経験に関する記述	カンボジアのSurise Japan hospital事業に調査の段階から従事。その後、北原グループのベトナム事業やタイ事業にも従事し、現在は中央アジアウズベキスタンへのリハビリテーション導入事業に従事している。

授業科目名	総合演習Ⅰ	（フリガナ） 担当教官名	理学療法学科教員 作業療法学科教員
開講学期	通年		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年 作業療法学科　1年	時間数 単位数	60 2	授業形態	演習	必修･選択の別	必修

科目概要	本科目は、理学療法・作業療法の基礎となる解剖学、運動学、生理学の知識を統合することを目的としている。その中でも、骨の解剖、関節の解剖と運動、筋の起始・停止・作用・支配神経、循環器の解剖生理、腎・泌尿器の解剖生理、呼吸器の解剖生理、内分泌の解剖生理、消化器・嚥下の解剖生理に焦点を当てる。加えて、アクティブラーニングを用いて各疾患の病態と症状の理解を図る。さらに、情報通信技術に関連する法律を学び、加えて、デジタル端末の基本的な操作方法を修得する。
到達目標	1年次に学修すべく解剖学、運動学、生理学を復習し、その知識を用いて2年次に学ぶ、疾患学や理学療法評価学・作業療法評価学に応用していく基礎能力を身につけることができる。 デジタル端末の基本的な操作方法を修得し、プレゼン資料を作成することができる。

回数	授業内容	担当
1~4	オリエンテーション（授業の目的・到達目標・授業の概要・学修の準備について） 骨関節靭帯の解剖学・運動学	堀江貴文
5	筋の起始・停止・作用・神経支配	1年生担任
6~21	情報通信技術の活用	山﨑健治
22~23	循環器の解剖生理	錦織健次
24	腎・泌尿器の解剖生理	神田一路
25~26	呼吸器の解剖生理	神田一路
27~28	消化器・嚥下の解剖生理	吉田俊輔
29	エネルギー代謝	神田一路
30	内分泌の解剖生理	堀江貴文 神田一路

アクティブラーニング	アクティブラーニングでは、グループ学習を基本とする。疾患について病態と症状を解剖学・生理学・運動学の知識でつなげ関連図を作成する。課題を通じて、自己学習能力およびグループで協働する能力の育成を図る。 課題の詳細は、アクティブラーニングの初回講義に提示する。
評価基準	試験80%、課題20%にて評価する。 ※骨関節靭帯、筋、循環器、腎・泌尿器、呼吸器、代謝、消化器・嚥下、内分泌の8分野毎に試験（それぞれ100点）を行う。試験において60点未満は再試験を受験することができる。 ※8分野の平均得点および課題の得点の合計が、総得点の60%以上を単位認定とする。
教科書	適宜、資料を配布する。 森本尚之･奥村晴彦（著）『基礎からわかる情報リテラシー　コンピューター･インターネットと付き合う基礎知識　改訂第5版』
参考書	国試の達人　運動解剖生理学編　（株）アイペック 国試の達人　臨床医学編　（株）アイペック
実務経験に関する記述	

授業科目名	スポーツトレーナー演習	（フリガナ） 担当教官名	松本康佑（マツモトコウスケ）・蔦川和希（ツタガワカズキ） 小村康平（オムラコウヘイ）
開講学期	後期		

対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	演習	必修･選択の別	自由選択

科目概要	本科目は、理学療法士がアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な姿勢、知識・技術をスポーツ現場において実際の活動や業務補助を通して学び、実践することで習得する。
到達目標	理学療法士がアスレティックトレーナーとしての働き方について見学し、仕事内容を理解し説明することができる。 スポーツ現場での必要な姿勢を身に着けることができる。 課題発見・設定・解決のサイクルを経験し、自身のなりたい理学療法士像に向けての課題を明確にし、解決策を明確にすることができる。 スポーツ現場での他者とのコミュニケーションの取り方を理解し実施することができる。

回数	授業内容	担当
1	介入高校：横田高校ホッケー部、開星高校サッカー部、米子松陰硬式野球部、松江工業高校ソフトテニス部 内容：理学療法士のスポーツ分野での業務を見学や補助を通じて、必要な知識や技術について理解を深めるとともに、理学療法士としての責任感、礼儀、身だしなみをを身につける。	松本康佑 蔦川和希 小村康平
2		松本康佑 蔦川和希 小村康平
3		松本康佑 蔦川和希 小村康平
4		松本康佑 蔦川和希 小村康平
5		松本康佑 蔦川和希 小村康平
6		松本康佑 蔦川和希 小村康平
7		松本康佑 蔦川和希 小村康平
8		松本康佑 蔦川和希 小村康平

アクティブラーニング	・実習前には講義を行い、事前学習を行う。 ・現場実習毎に課題を提供し、課題や実習を通して課題解決能力を養う。
評価基準	出席（10%）、実習での取り組み姿勢や課題の成果物（90%）により判断する。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	適宜資料を配布する。
実務経験に関する記述	スポーツトレーナー実習では、整形外科クリニックでの臨床経験があり、3年以上スポーツ現場に従事した理学療法士が、スポーツ現場での業務内容や必要な知識や技術について実践的教育を行う。

授業科目名	スポーツメンタルトレーニング		（フリガナ） 担当教官名	柘植陽一郎（ツゲヨウイチロウ）			
開講学期	後期						
対象学科及び学年	理学療法学科　1年	時間数 単位数	15 1	授業形態	演習	必修･選択の別	自由選択
科目概要	アスリートやスポーツチームのメンタルサポートに資する理論と方法の習得を目的とする。授業ではアスリートやスポーツチームが抱える心理的諸問題に対する理解、ならびにその対処法となるスポーツメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングをはじめとするメンタルサポートの理論と方法に関して演習を交えながら取り組む。						
到達目標	・アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資するメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング等）の理論と方法を習得し、模擬的に実践できるようになる。 ・チームビルディングに資するメンタルサポートの理論と方法を習得し、模擬的に実践できるようになる。						

回数	授業内容	担当
1	・オリエンテーション ・メンタルサポートの諸理論 ・心理アセスメントの手法と実践	柘植陽一郎
2	・スポーツメンタルトレーニングの諸理論 ・スポーツカウンセリングの手法と実践	柘植陽一郎
3 4	・スポーツメンタルトレーニング・メンタルサポートの手法と実践 ①動機付け ②目標設定の理論と実践 ③リラクセーション ④認知療法 ⑤行動療法	柘植陽一郎
5 6	・模擬症例演習①オリエンテーション ・模擬症例演習①「アスリートが抱える心理的諸問題に対するメンタルトレーニング」（グループワーク）	柘植陽一郎
7 8	・模擬症例演習②オリエンテーション ・模擬症例演習②「チームビルディングに資するメンタルサポート」（グループワーク）	柘植陽一郎

アクティブラーニング	・理論の講義の前には予習課題を提示し、事前学習を行わせる。 ・模擬症例演習ではグループワークを用いて、他者との協働力（リーダーシップ・フォロワーシップ）、情報リテラシー、自主学習能力を養う。
評価基準	出席（10%）、模擬症例演習に対する取り組み姿勢（90%）により判定する。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	適宜資料を配布する。
実務経験に関する記述	各競技団体および選手に対するスポーツメンタルトレーニングの指導経験を有する教員が，その経験を活かして，スポーツメンタルトレーニングの理論的背景と具体的な方法について講義する。